

平川鴨里

通称

平川良坪

ひらかわ・おうり

ひらかわ・りょうへい

医師、漢学者

経歴

生:弘化2年(1845年)3月13日、備後国安那郡下加茂村(現広島県福山市加茂町下加茂)生まれ

没:昭和6年(1931年)12月4日、享年87歳、深安郡下加茂村宮山(現福山市加茂町下加茂)の墓地に葬る

—	—	幼時大本橋巢に絵画を学ぶ
安政3年(1856年)	11歳	山路機谷に養われ、合わせて古文法を学ぶ
安政6年(1859年)	14歳	はじめて「佛通寺」を作詩
?～文久元年(1861年)	?～17歳	森田節齋、無絃女史、明順法師に漢学・詩文を学ぶ
文久2年(1862年)～慶応3年(1867年)	18～23歳	寺地強平に師事し蘭学・医学を修める(5年間)
慶応3年(1867年)	23歳	藤江村に帰り医業を開く
明治元年(1868年)末	24歳	苗字帯刀を許される
明治2年(1869年)	25歳	福山藩医
明治2年(1869年)9月	25歳	同仁館助教兼薬局副司
明治4年(1871年)12月	27歳	同仁館病院廃止
明治4年(1871年)12月	27歳	笠岡に招かれ学徒を教える(4年間)
明治8年(1875年)	31歳	藤江に戻り、開業、および塾で授える
明治12年(1879年)	35歳	上京して佐々木東洋の門に入り、蘭英医学を修める
明治13年(1880年)5月	36歳	帰国して福山町に開業する
明治26年(1893年)	49歳	痘瘡の流行で種痘を行うも報酬を受けず
明治28年(1895年)	51歳	福山町医
明治31年(1898年)	54歳	福山伝染病院医を嘱託される
明治40年(1907年)ごろ	63歳ごろ	鎌田呉陽50周忌に参列
明治43年(1910年)	66歳	深安郡医師会長(初代)
大正5年(1916年)	71歳	福山市医
大正13年(1924年)	80歳	福山医師会表彰
昭和3年(1928年)11月	84歳	天皇即位式にあたり高齢をもって養老杯を賜る

昭和4年(1929年)	85歳	頼山陽顕彰会の設立にともない顕彰委員
昭和5年(1930年)	86歳	妻を亡くす

生い立ちと学業、業績

生い立ちと学業

平川鴨里、弘化2年(1845年)3月13日、備後国安那郡下加茂村(現広島県福山市加茂町下加茂)に生まれた。幼名千代吉、名は参、字は士傑、通称良坪、鴨里はその号で、鍊橋・二竹楼・躋壽堂などの別号もある。

安政3年(1856年)11歳の時、親族にして富豪文人たる藤江村(現福山市藤江町)の山路機谷に養われ、同家において機谷並に森田節齋、無絃女史、明順法師に漢学並に詩文を学び、14歳のとき「拂通寺」の詩を作って師を驚かせた。妻は松永の医家高橋西山の女。

業績

ついで志を立て、文久2年(1862年)、18歳のとき、福山誠之館教授・寺地強平に師事して、蘭学・医学を修め、5年後に藤江村に帰り、医業を開いた。時に痘瘡流行す。衆論を排して種痘を施した。これ備後地方に於ける種痘の開祖である。

明治元年(1868年)の末、藩より苗字帯刀を許され、維新後の明治2年(1869年)、25歳で藩医に採用された。明治2年(1869年)9月、寺地強平を教授兼院長として藩立の医学校兼病院(同仁館病院)が開設されて、平川良坪は、助教兼薬局副司として院長を助けた。この時禄高七十石。廃藩の後、明治4年(1871年)12月に病院は廃止された。

そのため笠岡に迎えられて4年の間診療にあたり、再び藤江に帰る。時に明治8年(1875年)、医業の傍ら学徒に授く。その後、明治12年(1879年)上京して佐々木東洋の門に入り、約1年間蘭英医学を修めた後、帰国して明治13年(1880年)5月福山町に開業した。そうして老年にいたるまで同地で診療にあたるかたわら、福山町医、福山市医、伝染病院医などの委嘱をうけ、また深安郡医師会長などをつとめた。大正13年(1924年)、齢80歳の時、福山医師会より表彰された。

文人

晩年は専ら蘭竹、山水など詩書画に親しんだ。また明治以後唯一の漢学者でもあり、『二竹楼文稿』、『二竹楼詩稿』、『二竹楼詩抄』、『鴨里耄餘詩文』、『竹影集』など、和漢の著書がある。

墓碑の撰

大正5年(1916年)6月、福山市寺町の大念寺に「松岡重助寿蔵碑」を撰んだ。また大正15年(1926年)10月、福山市御幸町に建てられた「吉田先生頌徳碑」を撰んだ。さらに噴霧器製作の元祖である河村秀行(福山市住吉町、画家鎌田呉陽第二子)の墓誌を

撰んだ。

昭和6年(1931年)12月4日逝去。享年87歳。

平川龍造は、氏の次男で陸軍軍医監、医師。平川武三郎は、氏の三男で医師で良坪氏の病院をついだ。

誠之館所蔵品展示品

管理No.	氏名	名称	制作/発行	日付
t1010	平川鴨里 画賛	日本画「竹図」	—	大正6年(1917年)
00062	平川鴨里 書	七言絶句「月暗林園」	—	大正13年(1924年)
t0970	平川鴨里 書	七言絶句「戊辰新年作(八旬又四歳)」	—	昭和3年(1928年)
t1020	平川鴨里 書	七言絶句「初夏湧興」	—	昭和4年(1929年)
t1130	平川鴨里 画賛	色紙 七言絶句「竹図(城市何曾)」	—	昭和4年(1929年)
05332	平川鴨里 書	七言絶句「使民知忠」	—	—
t0140	平川鴨里 書	「葦陽城夜桜」	—	—
t0960	平川鴨里 画賛	日本画「松図」	—	—
00270	平川鴨里 著	『鴨里耄餘詩文』	平川龍造	昭和7年
03063	池田春美 著	『山路機谷先生傳 附森田節齋と平川鴨里』	内外印刷(株)出版部	昭和60年

出典1:『備後先覚者名鑑(郷土を創った人々)』、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和35年6月

出典2:『誠之館記念館所蔵品図録』、69頁、福山誠之館同窓会編刊、平成5年5月23日

出典3:『穆翁傘寿録「往時縹渺」』、294頁、岩崎博著、鶴庵文庫刊、2007年12月1日

出典4:『山路機谷先生傳 附森田節齋と平川鴨里』、池田春美著、内外印刷(株)出版部刊、昭和60年9月20日

出典5:『広島県の医師群像—明治時代—』、47頁、阪田泰正著、安芸津記念病院郷土史料室刊、昭和61年1月1日

出典6:『広島県の医学歴史散歩』、69頁、「吉田先生頌徳碑」、阪田泰正著刊、安芸津記念病院郷土史料室刊、昭和57年8月1日

出典7:『福山の碑』、66頁、「吉田龍蔵の碑」、三上勝康著、福山市文化財協会刊、昭和50年11月10日

出典8:『福山のいしぶみ散歩』、81・86頁、佐野恒男著、福山文化財協会刊、1993年5月12日

関連情報1:『平川家略歴及平川鴨里事蹟』、池田春美著、昭和8年

2005年1月28日更新:所蔵品●2005年4月14日更新:出典●2006年3月22日更新:所蔵品●2006年3月23日更新:所蔵品●2006年12月8日更新:関連情報●2007年12月25日更新:経歴・本文関連情報削除・出典●2007年12月26日更新:本文●2007年12月27日更新:本文●2008年1月7日更新:本文●2008年3月12日更新:誠之館所蔵品・出典●2009年2月19日更新:経歴・誠之館所蔵品●2009年3月5日更新:タイトル・本文●2009年9月18日更新:著書・出典・関連情報●2009年9月24日更新:経歴・本文・著書・誠之館貯蔵品●2009年9月30日更新:本文・出典●2009年10月19日更新:出典●2012年2月15日更新:本文・出典●2012年2月29日更新:出典●2013年12月20日更新:誠之館貯蔵品展示品●2014年5月30日更新:誠之館貯蔵品展示品●